

異文化コミュニケーションカンファレンス

# SpaceLive Fantasy

銀河138億年の旅



奈良県大台ヶ原にて撮影

**日時** 9月20日(木)  
18時～18時30分、  
18時50分～19時20分

**場所** みみはらホール  
星空案内人 Imre

**講演**

# 基地問題は沖縄だけではなく国民全体の問題

## 沖縄支援・連帯支援集会を開催



名嘉共道沖縄民医連事務局長

**70人を超える参加者で**  
7月27日(金)午後5時半から、耳原総合病院地域交流ゾーン・みみはらホールにおいて、医療・福祉・まちづくりの会主催の「沖縄支援・連帯支援集会」が開催されました。

集会では今年1月の「憲法学習会」の講師をしていただいた、名嘉共道氏(全日本民医連理事・沖縄民医連事務局長)を今回もお招きし、「沖縄県をめぐる情勢」として講演していただきました。  
現在、辺野古周辺に沖縄県民の世論に反して新基地建設工事が続いています。これまで何度も「沖縄には基地は要らない」と選挙で

民意を示してきたにもかかわらず、非人道的に強行され、沖縄の民主主義が守られていない現状が報告されました。  
また、軟弱な地盤のため埋め立て工事は進められず、設計変更には県知事の申請と許可が必要です。秋に行われる沖縄県知事選挙に向けて基地建設反対の立場の候補者を支援し、勝利をめざす取り組みを訴えられました。  
8月11日に開催された「沖縄県民大会」にも、医療・福祉・まちづくりの会から8人が参加、9月以降も大阪全体で支援を送り、勝利をめざしていきます。

講演の前には、第43次辺野古連帯支援行動に参加した耳原総合病院看護

### スライドによる報告

「沖縄県民大会」にも、医療・福祉・まちづくりの会から8人が参加、9月以降も大阪全体で支援を送り、勝利をめざしていきます。

講演の前には、第43次辺野古連帯支援行動に参加した耳原総合病院看護



コーラスたんぼぼのみなさん

師の本多比佐代さんが、沖縄の歴史や現状をスライドで報告しました。また「コーラスたんぼぼ」「オキナワ」「沖縄を返せ」の2曲が披露され、会場みんなで「返せ」を合唱しました。  
冒頭に穴井専務理事が挨拶し、沖縄に関するニュースの半分以上がフレイクニュース(ウソの情報)であり、実際に現地に行くと実情を知ることが大切であるとも言われました。この支援集会を参加者で共有し、さらに運動・行動を広げていきましょう!  
(事務局)

## 理事会報告

### 6月度理事会(概要)

6月18日(月)午後6時から理事21名、監事2名の出席で、第10回理事会が、社会医療法人同仁会本部3階会議室で開催されました。

理事長開会挨拶のあと、専務理事より会務報告、友の会活動、経営結果等の報告が行われ、出席理事全員が報告及び協議事項について了承しました。

### 〈主な内容〉

- ① 拡大常任理事会等の会務報告
- ② 健康友の会みみはら代表世話人会議報告
- ③ 5月度経営結果についての報告
- ④ 協議・確認事項
- ・ 定例評議員会の議案について
- ・ 泉州看護専門学校建設について
- ・ 医療介護安全大会の開催日時、テーマについて



新築なった耳原総合病院

この総括会議には総合病院28部門のうち22部門から報告が行われ議論が交わされました。内科からは、医師

「今はまさに病院の歴史を画する時期に当たっております。いくら建物が新しくなり、施設が改善されても、われわれが真に勝負するものはわれわれの行っている医療の本身であります。中略、当院の実情にそった、民主的集団医療体制を創造的につくりあげなくてはなりません」

この総括会議には総合病院28部門のうち22部門から報告が行われ議論が交わされました。内科からは、医師

不足の中で「診療的役割と界における最終病院(※一般医療をはじめ、高度特殊医療や救急医療などにも積極的に取り組み、地域医療を支える基幹病院としての役割を持つ医療機関、といった意味合い)として外来と入院との両面の機能、大阪民医連のセンター病院と研修病院としての役割、公害問題など「民主勢力のたかひ」の中での医学的支援、政治革新の役割を担っている困難さが訴えられるとともに、「この苦闘の中から数年内には、大阪でも有数の病院に発展する可能性が展望できるようにしつつあることを感じるものであります」と述べています。

※発行当時の原文のまま掲載しています。

# 60年のあゆみ

いのち輝け未来へ

その7

## 第3章

### 要求に応え多面的に発展、規模・内容を充実

1972年～1981年

#### 「新生耳原」のあり方をめぐる 自己点検・総括

総合病院の建て替え・医療機能の拡充は、同仁会の歴史にとって時代を画する事業でした。当時の病院幹部は建て替え後の総合病院を「新生耳原」と表現し、それに見合った医療のあり方をめぐって病院全体へ議論を呼びかけました。そして、1974年3月の16日、23日の2日間をかけて「形をととのえた総括会議」というものは、ほとんど初めての経験となる病院あげでの総括会議(第1回日常診療総括点検会議)が開催されたのです。会議開催にあたり、総合病院・福永宏海院長(当時)は総括会議の目的を次のように述べています。

「訪問など幅広い活動を振り返りながら、さらに「近畿的な範囲の小児科、小児保健関連者と、小児の医療保健活動、社会保障改善の活動を通じて団結を高めよう」ということを目指したいと今後の計画が意気高らかに述べられました。